年　組　名前

道新でワークシート

味のスパイスに自家製野菜

こだわり提供したい

スープカレー「すあげ」農業参入

【江別】道内外でスープカレー店「Ｓｕａｇｅ」を展開する「すあげ」（江別）が農業に参入し、今春から野菜の本格栽培を始めた。江別市内の農地4㌶でジャガイモやニンジンなどを育て、スープカレーの具材として活用する。投資額は約1億7千万円。自ら農作業の先頭に立つ斎藤京司社長(60)は「新型コロナウイルス禍で飲食業は厳しいが、こだわりのカレーを提供したい」と意気込む。（堂本晴美）

同社は札幌に4店舗、東京に2店舗を構え、東京のセントラルキッチンは宅配向けにもスープカレーを提供している。素揚げした具材が特徴で、「さらにおいしい野菜を提供するには自分たちでつくるしかない」と一昨年、江別市内で試験栽培を始め、昨年7月に農業法人「すあげアグリ」を同市内に設立。今年2月に「すあげ」本社も札幌から江別に移転した。

地元農家から5・4㌶を借り、選果場や冷蔵・冷凍庫などを整備。このうち4㌶で今春、ナスやカボチャ、ピーマンなどの本格栽培を始めた。将来的にはスープカレーに合うキクラゲやマイタケの生産も検討する。投資資金の大半は北洋銀行の紹介で日本政策金融公庫から調達した。

試行錯誤もあった。農地は長年休耕地で、一昨年は野菜がほとんど育たなかった。土づくりから取り組み、昨年は斎藤社長自ら札幌市農業支援センターの講座に約8カ月通って、基礎を学びながら試験栽培を続けた。その結果、昨年は一定収量を確保でき、一部店舗で野菜の提供も実現した。

逆風もある。新型コロナの影響で4月の来店客数は前年比8割減。斎藤社長は「感染の長期化で今後、飲食文化のあり方は変わるかもしれないが、おいしいものを食べたいという人間の欲求は変わらない。新たなサービスや商品開発も検討し、おいしいスープカレーを提供し続けたい」と前を向いた。

２０２０年４月２３日（木）　朝刊　全道遅版　社会　２４Ｐ（記事は再編集しています）

①「Ｓuage」と「すあげ」という言葉の説明として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　「Ｓuage」はメニューの名前で、「すあげ」は油で揚げた野菜のことである。

イ　「Ｓuage」は札幌の店の名前で、メニューの名前で「すあげ」は江別の店の名前である。

ウ　「Ｓuage」はスープカレーの店の名前で、「すあげ」は会社の名前である。

エ　「Ｓuage」と「すあげ」は表記の違いであって意味の違いはない。

②「すあげ」が農業を始めた理由を４０字程度で書きなさい。